

ながまち荘

VOL 55

だより



お花見ドライブ



桜咲く、笑顔咲く!!



こりやー
あっちいげー!!



節分行事

編集発行

社会福祉法人 済生会支部山形県済生会 特別養護老人ホーム ながまち荘

〒990-0811 山形市長町751番地

■指定介護老人福祉施設 TEL (023) 684-2391 (代表) FAX (023) 684-2394

■指定短期入所生活介護事業所 (介護予防短期入所生活介護事業所) TEL (023) 681-5732

■指定通所介護事業所 (介護予防通所介護事業所) TEL (023) 681-7589

■済生会なでしこ地域包括支援センター
TEL (023) 681-7450 FAX (023) 681-7603

■指定居宅介護支援事業所 TEL (023) 681-2865

■おれんじサポートチームえがお
(認知症初期集中支援業務・認知症地域支援推進業務)
TEL (023) 687-0200 FAX (023) 687-0211

発行責任者 施設長 岩崎 勝也

発行日 令和6年4月

印刷 コロニー印刷

E-mail nagamachiso@yamagata-saiseikai.org

新年度を迎えるにあたり



特別養護老人ホームながまち荘
施設長 岩崎 勝也

4月に入り、陽射しが春めき、早春の草木の生長、開花とともに春の足音が聞こえてくる季節となりました。昨年度中は、当施設の事業運営についてご理解と多大なるご支援を賜り感謝を申し上げます。また、2月21日～3月13日までの22日間に亘り、新型コロナウイルス感染症のクラスターを発生させてしまい、多大なるご心配とご不便をおかけしてしまつたことをあらためてお詫び申し上げます。

昨年5月に、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の類型が2類から季節性インフルエンザ等と同じされる5類感染症に移行しましたが、施設内にウイルスが持ち込まれた場合、施設の構造上感染の波を止めることが容易でないことや基礎疾患がある高齢者が罹患した際の重症化リスクが非常に高いことを踏まえ、引き続き、水際の対策強化と基本的な感染予防対策の徹底を継続させて頂きたいと考えておりますが、その一方、皆様方には大変大きなご負担を強いていることも重々理解しておりますので、一日でも早くコロナ禍以前の正常な形に戻るよう、職員一丸となり、努力と工夫を重ねていきたいと考えております。

さて、今年度の当荘の基本方針でございますが、社会福祉法、老人福祉法及び介護保険法の理念である「自立支援」と「尊厳の保持」を基本に、中重度者への支援強化や健康寿命の延伸のための介護予防の推進、2030年までの国際目標であるSDGsをはじめとする社会貢献に資する取り組みを更に大きく深化させ、地域包括システムを包含した地域共生社会への展開を図り、当荘を利用される方はもちろんのこと、地域の皆様方からも信頼・評価される施設運営に努めてまいりたいと考えております。

融和協調の精神のもと職員一丸となり、温かい心遣いをモットーに日々、良質なサービスをめざして努力を重ねていきたいと考えておりますので、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ヒアリングフレイルサポーター養成講座受講！

ブルーリングをいただきました！

計42名が

9月20日、ヒアリングフレイルの提唱者である聴脳科学総合研究所所長 中石真一路先生を当荘にお迎えし「ヒアリングフレイルサポーター養成講座」が開催され、30名の職員が受講しました。

「聴こえ」の課題の一つに日本の補聴器の装着率が世界各国と比べて著しく低い事があります。これは聴力をチェックする機会が少ない事等が影響しているそうです。当荘ではその機会を提供し理解を促進する事業をすすめています。自分の聴こえ方を知り早期から補聴器を着用する事は聴力維持に効果があります。また難聴を放っておくと認知症を発症するリスクも高くなります。ヒアリングフレイルサポーターは、難聴の方に正しい関わりをする事、他、ヒアリングフレイルについての知識を広め、早期の医療機関の受診や補聴器の使用につながるよう支援していく事が役割として期待されています。

9月以降この講座をオンデマンドで受講した職員も含め、2月末現在で、合計42名が受講済みとなり、サポーターの証であるブルーリングをいただきました。

当荘では障害者生活支援体制加算を算定しており聴覚障害を持つ利用者様も多数いらつやいます。適切なコミュニケーションを図る事で安心して過ごしていただけるよう努めてまいります！



敬老会を開催！

9月18日（月）、敬老会が開催されました。今年度の祝い年の入居様は5名。会場を例年のデイサービスセンターホールから安全避難棟2階に移しての開催となりました。

当日は晴天に恵まれ、祝い年となられた入居者様へ施設長より賀詞と花束が贈呈されると、会場は拍手で包まれました。お祝いを代表して我妻ハナ子様より返礼のご挨拶が行われ、「このような会を開いて頂きありがとうございます」と、笑顔で述べられると、再び大きな拍手が響き渡りました。

その後、若柳流師範の免許を持つ会田るみ業務主査らによる舞踊の披露や、実習にいられていた大原学園の生徒さんたちによる花笠音頭も披露され、参加された他の入居者の皆様も一緒に楽しんでいただけたようでした。

職員一同、利用者の皆様の長寿を心よりお祝い申し上げます。



けあらーず カフェ開店！

3月1日、千歳コミュニティセンターにて「けあらーずカフェ」を開催しました。コロナ禍で数年開催できなかった介護者教室。再開にあたって、カフェのような雰囲気を楽しんでいただきたいという思いで今回ネーミングを新しました。

カフェには地区住民15名が来店。職員はエプロンを着けてお出迎えしました。大塚製菓さんより脱水についてご講話いただき、当荘デイサービスとショートステイの活動内容紹介の後、交流の時間を設けました。

交流のテーマは「私の近況」。参加者の明るい姿からは想像できない介護の苦労話や、地区住民の集いの場を作った方の話、健康を保つ為に頑張っている事など、たくさんの方のお話を聞く事が出来ました。

参加者からは「脱水予防の重要性が分かった。」「天を介護しているが話を聞いてもらえて良かった」「人との出会いの場でありまた参加したい。」等の感想がありました。地域貢献の一環として今後も開催していきたいと思っています。



認知症と共に歩む山形市

認知症の主な原因は「加齢」です。それ故に、高齢化が進む日本社会においては、令和7年になると5人に1人が認知症になるだろうと予測されております。これらの推計は、この先認知症は誰もがなりうる身近な病気であるということを意味しています。

そんな誰もがなりうる認知症。そんな認知症になった人やそのご家族の方々が、希望を持って、住み慣れた地域で暮らすことを推進する取り組みの一つに『チームオレンジ』があります。『チームオレンジ』とは、地域の認知症サポーターがこれまで学んだ認知症ケアの知識を活かし、認知症の人とそのご家族とチームを組み、共に暮らしやすい地域社会を作っていく活動です。

令和4年度からモデル事業として、山形市内に2カ所『チームオレンジ』が結成されていますが、その活動報告会が昨年12月、山形市総合福祉センター交流ホールで開催されました。この報告会では、チームオレンジに関する行政からの説明や、チームオレンジの各代表から活動紹介、今後の抱負等を発表していただきました。参加された方々は、より具体的な活動イメージを持つことができたものと思われまます。

今後よりいっそう我々職員もチームオレンジについて学びを深め、その普及啓発活動を展開しながら、『チームオレンジ』の立ち上げを支援していきたいです。

おれんじサポートチーム



ホーム (長期入所)

クリスマス

どのケーキにしようかなあ...



ケーキバイキングのケーキや
シャンメリーは家族会より
準備していただきました♡

園芸療法

今年は暖冬の影響で
一足早い春の訪れです



たまごのどうみそ作り



干し柿作り



正月



初釜



この茶瓶と茶釜は昔私が作った物!
久しぶりにお茶を点てたけど、
上手にできました。



上生菓子とほうじ茶スリは
八右衛門さんの手作り。

外出



紅葉ドライブ。木々の色づきに癒されました。

焼き芋

甘くて美味しい!!



苗植え〜収穫まで行った
さつまいも。早く食べたい!!

出前



いざ食堂さんのラーメン。やっぱうまいなあ〜!!

ラーメンも良いけどお寿司も美味しいよ!!

感染症対策が緩和され、外出や行事等の実施により、季節を感じていただけるような関わりを持っています。今後も楽しみのある生活が送れるよう、企画・支援していきます。

ケアフォーラム

2月17日（土）、第6回済生会ケアフォーラムが開催されました。山形県済生会の特別養護老人ホーム、老人保健施設、訪問看護ステーション、保育園等の合計8チームから、経験年数3～10年以内の職員が参加し発表します。今回がまち荘では「言葉の想いを叶える」をテーマに、「認知症」に着目し長期にわたる研究を行い発表を行いました。

日々ケアさせて頂くなかで、様々なご利用者様の「想い」の実現に向けて、私たち介護職員には何ができるのか、どこまで「想い」に寄り添い叶えることができるのか、考えることの大切さと気付きの大切さを改めて実感することができた機会となりました。

この発表で優秀賞を受賞させていただく事ができ嬉しく思います。これを励みにこれからも「想い」を最大限に叶えられる職員でいられるよう、職員一同ケアに努めていきたいと思います。



デイサービス

(通所介護)

作業療法士の井上です！デイサービスで行っている個別リハビリのご紹介をします。この方は、週2回デイサービスをご利用頂いているFさん。両側第一中足骨骨切り術後のため、方向転換時のふらつきが特に強くみられました。その為、タオルを使った自宅でも出来る自主トレーニングの指導や、バランス機能の向上を目的とした訓練、退院後から体重減量に向けた有酸素トレーニングも行っていました！

本人の目標

不安なく近くのスーパーへ買い物に行きたい！！



(退院後)
・歩行時、足裏の感覚が変わったこと、歩幅が狭いことで転倒の危険がありました。

●時より歩幅が極端に狭く自分の足に引っかかりそうになる場面も…

歩幅が狭く危険

リハビリ

乗り降り・踏み踏み・立位、この3種の運動を各2分間行います！開始当初は1分間がやっとでしたが、少しずつ時間や負荷量を上げ「持久性」と「耐久性」の力をつけていきました！

◆ 下肢三点セット



◆ 運動機器【エスカルゴ】で「すり足」や「つまずき」防止に繋がります



◆ タオルストレッチ
下肢の柔軟を図ります



ふくらはぎ
伸びる～！

チャレンジ

作業療法士・看護師同行のもと買い物へ



近所のスーパーまで、片道およそ1kmありましたが、道順や休憩できる場所、日陰を通るようにするなど、基本は見守りで、必要時に声掛けを行いながら無事に買い物する事が出来ました！



帰り道では、少し疲れが見られたようでしたが、自分で荷物を持ち、満足そうな様子で、「また行きたい！」と話されていました。

これ、美味しそうだね♪



買い物中は自分で品物を選べる楽しさを思い出されたようで「これ美味しそうだね」「何を買おうかな？」と笑顔がこぼれており、帰り道では「また行きたい！」と話されていました。私たち職員もFさんの不安が自信に変わった瞬間を目の当たりにし、とても嬉しい気持ちになりました。今後もデイサービスにいらしている利用者様の心身や生活の質向上を目指して職員一同、取り組んでいきたいと思います。



運動の一部を
ご覧ください♪

ショートステイ

(短期入所)

リハビリ

午後から
リハビリの時間

紅葉 ドライブ

山寺までドライブ



天気良くていいなあ～



楽々のびのび



楽々ふみふみ



楽々のりおり

下肢訓練三点セットを用いた取り組みを始めました。
下肢筋力アップを図ることで、転倒予防や立ち座りがラクになるなどの効果が期待できます。
3つの機器を用いて、立位、歩行を安定させるための筋力やバランス能力の向上を図る事ができます。

お正月



本年もどうぞよろしくお願いいたします。
2024年元旦の様子です。おせち料理をいただきました。



地域包括支援センターは、地域の身近な高齢者の相談窓口です。地域の皆様で、「認知症について学びたい」、「介護サービスの利用を検討したい」などありましたら、最寄りの地域包括支援センターへお気軽にご連絡下さい。

この日のセレモニーには、山形市のお宝広報大使「はながたべにちゃん」が駆けつけ、生徒たちには認定証やオレンジリングが贈られました。

七中生の皆さんは、O×クイズや寸劇にも真剣に取り組まれ、「認知症の人が住みやすい環境を作っていくことと思った」などのあたたかい感想が寄せられました。
今回、七中生が養成講座を受講したことで、山形市の認知症サポーターは3万人を突破しました。

令和5年10月26日、山形市立第七中学校の3学年約110名を対象に、関係機関の方々と共に認知症サポーター養成講座を開催しました。

済生会なでしこ地域包括支援センター

山形市立第七中学校で、
認知症サポーター養成講座を
開催しました



副主任介護職員
大場 智子

高齢になると食べ物を「かみ砕いて飲み込む力」が低下してきます。それが食欲の低下や低栄養、誤嚥性肺炎や窒息のリスクとなります。今回はながまち荘で平成23年より力を入れて取り組んでいる「美味しく安全に食べる」為の支援をご紹介します。

摂食・嚥下障害が及ぼす影響

食べ物をごっくんと飲み込み、食道から胃へと送り込む一連の動作を「嚥下(えんげ)」と言います。病気や加齢によって、この動作が難しくなる事を摂食・嚥下障害と言います。

嚥下機能が低下すると **誤嚥性肺炎** **窒息** **食欲の低下** **低栄養** 等をまねく恐れがあります！

★日本人の死因の4位が「肺炎」であり、その半数近くが「誤嚥性肺炎」が原因で亡くなっています(令和4年 厚生労働省発表)。
肺炎での死亡者数は50歳代から増加し、80歳代では死因の3位、90代以上では2位にまでなっていますから、嚥下機能の低下を防ぐ事の重要性が分かんと思います。

摂食・嚥下障害の原因

- ・脳出血や脳梗塞などの脳血管疾患やパーキンソン病、筋委縮性側索硬化症、認知症などの神経系の疾患
- ・加 齢…嚥下に必要な筋力低下、唾液の分泌が少なくなったり歯が減少する事で、咀嚼(かむこと)が大変になる
- ・その他…悪性腫瘍、口唇口蓋裂、精神的要因、薬剤、環境的要因、姿勢など…

施設入所者のほとんどに
嚥下障害があるとされています

こんなことがあれば
嚥下機能の低下が
始まっているかも!?

- ☐ 食事中にむせることがある
- ☐ 口の中に唾液がたまる
- ☐ 飲み込むのに苦労することがある
- ☐ 固いものが噛みにくい
- ☐ 舌に白い苔のようなものがついている

ポイント

特に高齢者はムセ
込みが無くても誤嚥
している事も多く
「ムセないから安心」
ではないのです!



ながまち荘での取り組み

入居者様に安全に食事を摂っていただく為に**VE検査(嚥下内視鏡検査)**を実施しています!VE検査とは、鼻から咽頭手前まで内視鏡カメラを挿入し、嚥下(飲み込み方)や嚥下力(飲み込む力)、喉の機能を確認するための検査です。本来は病院で行う検査ですが、ながまち荘では2ヶ月に1回、済生病院消化器内科の中村由紀子医師に来荘いただき、荘内で検査をしています。荘内で検査する事で、緊張する事なく検査を受けられますし、検査で口にする食材や介助方法も普段と同じなので実生活に活かしやすいというメリットがあります。中村医師からは、ご本人・ご家族・病院と施設のネットワークが構築され、食べられなくなっている事を皆で共通理解できる良い機会となっているというお話がありました。

現場の介護職員より

- ・実際に食事介助に当たる介護職員が検査に立ち会う事で、嚥下の状態を理解することができ、水分につける**トロミの強さ**を決定したり、**食形態**や食事摂取時の**姿勢**はどうかなど、具体的に検討する事ができています。
- ・「美味しく安全に食べていただく」事への職員の意識が高まり、最後までお口から食事・水分を摂ってもらいたいという想いを胸に日々のケアにあたる事ができています。
- ・今後も他職種連携で、食の楽しみを守っていききたいと思います。



▲VE検査の様子

施設内改修工事を 行いました！

8月から9月にかけて、施設の改修工事を行いました。

当施設は今年7月で開設から33年を迎えたところですが、建物内の老朽化もチラホラ見え始め、宿直室、仏間、介護員休憩室の3箇所の改修工事を行う事となりました。改修にあたっては、今後長期的にみて、衛生的に管理できる仕様が望まれる事から、宿直室と介護員休憩室は畳からフローリングに変更しました。

仏間はこれまで靴を脱ぎ置にあがってお参りをしていましたが、入り口の段差を無くしてバリアフリーのタイルにした事で、ご遺体の安置も安全に行えるようになり、かつ車椅子の利用者様でも気軽にお参りができるようになりました。

この日お参りに来られたのは入居者の清水様。『平らでいいことお。来やすくなった。』と話しておられました。



苦情報告

令和5年2月、朝、デイサービス利用者様が送迎車へ乗る際につまずいてしまい、ステップに片膝をついてしまふ。2日後、左わき腹に痛みが出た為に通院すると、肋骨にひびが入っていることが判明。ご家族より送迎時の出来事が原因ではないか、施設の見守りがなっていないかつたのではないかとという申し出があつた。

↓利用者様の方については、普段から1人で乗り降りが出来た方でした。職員も念の為に手を添える等して見守りを行っていましたが、突発的に起きてしまったこともあり支えることが出来ませんでした。また、事故直後は膝に擦り傷はありましたが、左わき腹の痛みは聞かれていなかったこと、普段通り体操や活動をこなされていたことから、この度のけがに気づくことが出来ませんでした。引き続き、利用者様の事故防止に努めながら、安心出来るサービス提供を行っていきます。



おしらせ

ブログやInstagramで利用者様の日々の様子や取り組み等をご紹介します。
ぜひご覧ください!!

ブログ
<https://www.yamagata-saiseikai.org/nagamachiso-blog/>



Instagram
やってます!



@nagamachi_day



NAGAMACHI_DAY

ながまち荘デイサービス

編集後記

今年の冬は暖かく、お正月にながまち荘の中庭でふきのとうを見つけるほどでした。これからますます過ごしやすくなる季節です。身近な発見を楽しみながら利用者様とともに笑顔あふれる日々を過ごしていきたいと思ひます。

広報委員／岩崎勝也、高見友郁、大場智子、佐々木香織、鈴木郁苗、種本佳奈恵、村岡千成実、岡崎倫子、武田はるか